

## 国際バルク戦略港湾の関係企業による 石炭の共同輸送の予定・実績

### ＜予 定＞

#### ■【追加】中国電力(株)・四国電力(株)(共同輸送)

積出港	ニューキャッスル港(オーストラリア)
出発時期	平成30年11月28日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成30年12月14日(予定)
輸送量	約7万トン(中国電力:約4万トン、四国電力:約3万トン)
輸送船	8万トン級パナマックス船

### ＜実 績＞

#### [2018年度(平成30年度)]

#### ■A社・東ソー(株)(共同輸送・二港揚げ)

積出港	ニューキャッスル港(オーストラリア)
出発時期	平成30年10月13日
荷揚港	徳山下松港以外の港
到着時期	平成30年11月上旬
荷揚港	徳山下松港(新南陽地区)
到着時期	平成30年11月7日
輸送量	約7万トン(A社:約3万トン、東ソー:約4万トン)
輸送船	8万トン級パナマックス船

※当社の株主でない企業の情報については、一部情報を伏せて掲載しています。

#### ■出光興産(株)・東ソー(株)(共同輸送・二港揚げ)

積出港	ニューキャッスル港(オーストラリア)
出発時期	平成30年9月16日
荷揚港	徳山下松港(徳山地区)
到着時期	平成30年10月8日
荷揚港	徳山下松港(新南陽地区)
到着時期	平成30年10月18日
輸送量	約7万トン(出光興産:約2万トン、東ソー:約5万トン)
輸送船	8万トン級パナマックス船

■ 宇部興産（株）・中国電力（株）（共同輸送）

積出港	ニューキャッスル港（オーストラリア）
出発時期	平成30年8月22日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成30年9月8日
輸送量	約6.5万トン（宇部興産：約4.5万トン、中国電力：約2万トン）
輸送船	8万トン級パナマックス船

[2017年度（平成29年度）]

■ 宇部興産（株）・中国電力（株）（共同輸送）

積出港	バンジャルマシン沖（インドネシア）
出発時期	平成29年12月31日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成30年1月11日
輸送量	約7万トン（宇部興産：約5万トン、中国電力：約2万トン）
輸送船	8万トン級パナマックス船

[2016年度（平成28年度）]

■ 中国電力（株）・四国電力（株）（共同輸送）

積出港	バンジャルマシン沖（インドネシア）
出発時期	平成29年1月15日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成29年1月26日
輸送量	約7万トン（中国電力：約3万トン、四国電力：約4万トン）
輸送船	8万トン級パナマックス船

■ 中国電力（株）・東ソー（株）（共同輸送・二港揚げ）

積出港	ニューキャッスル港（オーストラリア）
出発時期	平成28年9月15日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成28年9月30日
荷揚港	徳山下松港（新南陽地区）
到着時期	平成28年10月2日
輸送量	約7万トン（中国電力：約2万トン、東ソー：約5万トン）
輸送船	8万トン級パナマックス船

[2015年度（平成27年度）]

■ 中国電力（株）・宇部興産（株）（共同輸送）

積出港	タラハン港（インドネシア）
出発時期	平成28年3月1日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成28年3月14日
輸送量	約6万トン（中国電力：約3.5万トン、宇部興産：約2.5万トン）
輸送船	6万トン級パナマックス船

■ 中国電力（株）・（株）トクヤマ・出光興産（株）（共同輸送）

積出港	ニューキャッスル港（オーストラリア）
出発時期	平成27年12月11日
荷揚港	徳山下松港（徳山地区）
到着時期	平成27年12月28日
輸送量	約8万トン（中国電力：約5万トン、トクヤマ・出光興産：約3万トン）

■ （株）トクヤマ・出光興産（株）（共同輸送・二港揚げ）

積出港	ニューキャッスル港（オーストラリア）
出発時期	平成27年6月2日
荷揚港	徳山下松港（徳山地区）及び他港
到着時期	平成27年6月18日
輸送量	約6万トン（トクヤマ：約2万トン、出光興産：約4万トン）

[2014年度（平成26年度）]

■ 中国電力（株）・宇部興産（株）（共同輸送・二港揚げ）

積出港	ニューキャッスル港（オーストラリア）
出発時期	平成26年12月23日
荷揚港	徳山下松港（下松地区）
到着時期	平成27年1月8日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成27年1月10日
輸送量	約10万トン（中国電力：約6.5万トン、宇部興産：約3.5万トン）
輸送船	10万トン級スモールケープ船

■ 宇部興産（株）・中国電力（株）（共同輸送）

積出港	サマリンダ沖（インドネシア）
出発時期	平成26年12月4日
荷揚港	宇部港
到着時期	平成26年12月13日
輸送量	約7万トン（宇部興産：約4万トン、中国電力：約3万トン）
輸送船	7万トン級パナマックス船

※これらは当社が把握している事例であり、石炭の共同輸送の予定・実績の全ての事例を網羅したものではありません。